

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000530		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム あしきた		
所在地	熊本県葦北郡芦北町芦北2015-6		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周辺には役場、警察署、消防署(新築し3号線向かい側に移転)、セブンイレブン、JA集荷場等があり、六地条件は良いです。大変日当たりが良く、居室や居間に陽が降り注ぎ、冬は暖かく過ごせます。天気の良い日には庭に出て日光浴やランチを楽しむことも出来ます。昨年の水害ですべてが流れてしまいましたが、利用者様が快適に過ごせる様、職員が力を合わせてホーム内外を整備しております。少しずつですが、花を植え、畑を耕し季節の野菜を植える準備も進めています。また景色の良い場所に出かけ、ドライブを楽しんだりもします。職員は常に利用者様が安心・安楽に、またいつも笑って過ごせる様、日々介護を行っています。職員全員、一致団結しこれからも「あしきた」理念の下、人間としての尊厳を尊重し、個性・主体性を尊重して、利用者様の生活を支援して行きます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はコロナ禍の中でもこれまでの楽しかった生活が、豪雨災害により一変し避難生活を経て、改修されたホームに戻ったばかりであり、入居者の笑顔を絶やさないようにと職員も明るく笑顔を持って取り組むホームである。豪雨の直撃という困難な状況に、夜勤者の入居者の命を守ろうとする使命感や判断力、これまでの地域との繋がりが、緊張する中での避難に生かされたことに敬意を表したい。入居者の入れ替わりもあるが、入居歴8年にして介護度も変わらずに自由な生活の様子に入居者個々の心身の変化に気づき、観察を生かしたケアや、個別ケアとして生かされている。入居者の「ありがとぅなァ」との労いの言葉に馴染みの関係が表われ、職員もまた入居者を敬いながら、コロナ禍で人と接しない事での寂しさに、今できる限りの楽しみ毎(庭先でのお茶会等)を共に取り組む等、新たなホーム作りに全職員が努力を惜しまないホームである。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に貼ってある理念を各人読んでいます。具体的なケアについてはカンファレンスを開催しながら意見の統一を図っています。地域に密着したホームの理念を作り、取り組んでいます。	コロナ禍でも楽しい生活の中に、昨年度甚大な豪雨災害の直撃したホームでは、長い避難を経て、改修されたホームで新たな生活をスタートしている。夜勤者の迅速な判断と、2階に住人の協力を得て、人命を守ったが、心の中に油断があったことやこれまでの訓練に反省するところもあると振り返っている。入居者や職員が変わることでこれまでのホーム色が変わることも致し方ないが、理念の原点に立ち返り、入居者が毎日笑って過ごせるように、全職員が心一つに真摯にケアに取りむホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員は近隣の方への挨拶は常に心がけている。また毎月ホームの様子を「あしきた通信」を通して知って頂いています。	これまでの地域の中での生活基盤が確立していたホームでは、被災しても区長等から優しく見守られている。家族及び区長に依頼し、回覧板により(あしきた便り)啓発を図っている。住民から便りを見て帰れたことを喜ばれ、声を掛けてくださる様子にこの地域に根付いていたことが表われている。	コロナ禍で外出制限に、人と接しないことで寂しい思いをされている入居者に、人と人との繋がりが求められる現在、周辺の散歩や外でのお茶等を支援することで外部の方々との接点としている。コロナ収束により、これまで通りの地域の中での生活が支援されることと大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、今現在、行事は行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、今現在会議は開催されてないが、書類は作成し、配布している。	今年度は、新型コロナや豪雨災害という中で運営推進会議は書類による報告として行政や民生委員・消防署長等に持ち届け、情報を聞き取りする他、質問などがあれば連絡いただきたいと申し添えている。これまでは、地域の情報リサーチの場や近くにある消防署の現状等を知る機会に繋がっており、地域との関係性や防災に対する強みでもあったが、今回の甚大な災害時、運営推進会議の存在が迅速な対応に繋がったことに感謝の意を表している。	家族へは代表へ書類を配布されている。出来るならば全ての家族へ配布することを検討いただき、情報の共有化としていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供書等も役場に申請し頂いてます。また今年度は水害により罹災証明書が発行され、様々な手続きを行う為の情報を教えて頂いています。	行政及び消防署が近くにあるという立地と、運営推進会議の存在が豪雨時の確認や避難に繋がり、災害後の対応(医療や介護保険の免除申請等丁寧な説明やアドバイスを、義援金手続き等声も掛けていただく等協力関係を続けている。管理者は、行政との繋がり的重要性の再確認に繋がったと感謝の意を表している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を作成し、それを職員全員が目を通して共有認識を図っています。利用者様の状態を把握することで自由な生活を支援しています。	法人での身体拘束廃止委員会(毎月)での事例検討や、ホームでは書面での研修を行い、意識を強化させている。入居者の入れ替わりもあり、自宅の様子を心配して「帰る」などの言葉もあるが、職員が傾聴し好きなことに目を向けてもらう等観察する力や入居者個々を知る事で個別ケアに繋げている。更に常時見守ることが入居者のストレスに繋がり兼ねないとして話し合いを重ね、シルバーでの移動等自由な生活環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の通達には必ず目を通し、虐待がないよう注意し防止に努めています。職員全員が意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、町から等の通達には必ず目を通し、職員全員理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実施などについて詳しく説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とはいつでも話せる関係であり、意見、不満等聞き、必ず職員で話し合い運営に反映させている。また家族の方とは電話にてコミュニケーションをとり意見や要望を聞いています。	入居者とは日々の関わりの中で要望等を聞き取りし、家族へホーム側が代弁している。家族には利用料持参時やライン等を通して情報を発信し、意見等を聞き取りしている。遠方の家族には電話や手紙による情報の共有化とし、生活の再スタートとして不足品等をホーム側も発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務検討会を開催して職員が意見や提案を発信し、ホームの運営に反映させています。	スタッフミーティングのみならず、気になる事案は随時話し合い、業務検討会として全職員で些細な入居者の変化でも検討し、ホーム内の環境整備等みんなで新たに作り上げたいと意識を高くし、まずはやってみてと案を出し合う等合議により決定することとしている。職員同士お互いがフォローしあえる環境が息づき、有給休暇の推奨や希望休等働きやすい環境が整い、職員の持つ得意分野の発揮が明るいホームとして生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休産後福利厚生が確立しており、継続して働ける事で離職防止になっている。職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせるような労働環境作りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人全体での勉強会、町主催の研修等をオンラインにて参加出来る様準備中です。資格取得に職員常に頑張っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議への参加、また質の向上を図るべく近隣のグループホームとの交流をオンラインで行える様準備中です。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が利用者様の主訴や不安を把握し、統一した対応を行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へ連絡する際、心配事や困り事がないか尋ね、ゆっくり相談できるようにしています。話を聞くことで次の段階の相談につなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談があった時には職員で話し合い状況を確認しながら改善に向けた支援の提案をし、必要なサービスにつなげるようにしています。場合によっては法人の支援相談員に相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず利用者様が出来る事はして頂き、できない所を助ける。このことを大切にしながら利用者様と職員が共同し和やかな生活が出来る様、場面作りや声掛けを行っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談しています。本人様の希望などをご家族に話すようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は関係が途切れない様、地域に利用者様を連れてドライブに出かけるような支援に努めていきます。またオンライン面会にてゆっくり話が出来るように支援して行きます。	入居者は、被災を経験しホームを離れてた避難生活に認知症の進行も見られたが、元の居室に戻れたことで明るさを取り戻されたことこの事案は、ホームそのものが馴染みの場所であった一例として挙げられる。また、日頃は会話も少ない方でも昔から馴染んだ場所へ出かけると話も弾む入居者等そのときに満足してくださればとの職員の思いが入居者の会話と引き出している。コロナ禍で人と接触しない方法で馴染みの場所への外出を支援している。	車窓からのお宅訪問も検討されている。被災地の中で復興に向け移りゆく姿や、これまでの生活圏等、コロナ収束後に支援いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に心身の状態や気分を把握し、感情等の変化を見逃さない様、注意し見守っています。毎日のおやつや食事の時間など職員も一緒に多くの会話を持つように努め、利用者様同士の関係が円滑にいくように働きかけていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続が損なわれない様に、生活環境、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携を心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの希望や意向は職員全員が把握・共有し利用者様本位のケアに反映させています。	入居者は自分の意思を持って生活される方が多く、家族との時間を持ちたい等の言葉に家族に入居者思いを代言したり、入居者の遠慮されている様子には1対1の時間を作る等入居者個々の希望や意向把握に努めている。耳が遠い場合には耳元で話し掛け、にこにこして過ごされる方もストレスではないかと入居者の心情を察しながら、本音を引き出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めています。センター方式による家族の方より記入頂いた利用者様の状態の把握にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、利用者様の健康把握に努めています。体調の変化には職員が常に注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ね、その後職員全員でカンファレンスを行い介護計画を立てているので、職員の意見が反映されたプランが出来ています。	入居に当たり、他からの情報をもとに暫定プランを作成し、様子を見ながら正式なプラン作成としている。避難生活に向けたストレスケアや安全性を追求したプランを作成し、新たなホーム生活では移動という環境変化への対応や自力歩行の継続に向けたプラン等具体的かつ詳細なプランが策定されている。本人・家族の思いが込められ、介護認定更新や半年毎にプラン変更の可否を見極めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ずサービス担当者会議を開催し、ご家族の意向や利用者様の要望などを状況及び今の現状に即した見直しを行っています。利用者様の情報は常に職員全員で共有し介護の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、一人一人の満足度を高める様努力しています。母体が病院の為、医療との連携により、受診、入院、病気等の早期発見に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防署、区長、民生委員の方達と連携を取っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院がかかりつけです。その為日常的な受診や緊急時対応、夜間の往診など、適切な医療が提供されています。利用者の状態報告は常にホームの医師である理事長に相談報告しています。3ヶ月毎の定期検診を実施しています。	本人・家族の了承のもと全員が母体医院をかかりつけ医とし、定期受診や夜間対応、緊急時など必要な医療支援が速やかに行われている。また、月2回の訪問看護を全員が受けており、職員は相談やアドバイスを受ける等連携を図っている。専門医の受診については、状況などを伝え家族の対応を基本とし、必要があれば職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と常に連携を取り、相談等しています。月2回の訪問看護にも利用者様の状態報告をし、早期発見に取り組んでいます。24時間対応にて連携可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医院がかかりつけの為、常に連絡を取り合っています。利用者様が入院、退院される時も早めに連絡し合う等連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族には必ず意見を尋ねています。状態変化時にはご家族と相談し、かかりつけ医との連携を図っています。利用者様やご家族の意向を踏まえ、随時意思を確認しながら取り組んでいます。	入居時に看取りまで支援できることを伝えながら、ホームでの生活継続であるか、母体医院での入院か等その時点の家族の意向を聞いている。また、身体状況など変化があれば、家族の気持ちも変わるため再度確認している。職員は重度化された場合、「何なら食べられるだろうか」と検討し、出来得る支援をその都度検討している。昨春、状態が悪化され医院へ搬送の後、家族に看取られ最期を迎えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っています。また緊急時マニュアルも作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等作成し、年2回利用者様と一緒に避難訓練を行っています。(消防署へ報告書を提出します)夜間想定での訓練も実施しています。	昨年6月30日自主訓練を実施した直後に豪雨被害を受けている。避難訓練のようにはいかなない事が今回の水害からもわかり、現在、マニュアルを含め見直しを行っており、先ずはホームなりの誘導方法を一から検討することとしている。備蓄(食・排泄用品)の管理は高い保管場所に変更している。今後も近隣者や2階居住者との関係を継続していく意向である。	「芦北はこれまで被害はなかった」という意識があったことや、もしもがあるということを改めて学び、今年度は感染症の影響もあり、近隣者に協力を呼び掛けた訓練が実施されておらず、今後も地域との連携等確認いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			病院の		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様1人1人の事を把握し、利用者様が分かりやすく親しみやすい方言を交えた話し方で会話をしています。居室に入る時は必ずノックするか声掛けしています。また居室の入り口には視覚的プライバシー保護の為に暖簾を設置しています。個人情報の守秘義務は職員十分に理解しています。	避難後に改修が済んだホームに戻れたことに感謝し、新しい雰囲気やカラーを大切にしながら入居者に尊厳のある笑って過ごせるホームを目指している。入居者に必要以上の支援すると不快でもあり、個々によってはプライバシーに配慮しながら危険のないよう見守りに徹している。呼称は反応などから苗字や下の名前でも対応することから、本人・家族に了承を得ている。身だしなみの一つとして、理美容支援は感染症への対応から、家族へも説明しながら現在は職員が行っている。	居者の「自分がニコニコしとかんと周りも良いことはなか！」の一言に、学ぶことが多いと語っている。逆にストレスがあることはないだろうか・・・と、推察もしている。今後も一人ひとりに応じた支援や入居者とゆっくり過ごす時間を確保しながら日々のケアに取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などはよく聞いて本人様が納得されるよう説明し支援しています。利用者様の状態に合わせ本人が応えやすいよう、話をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、きっちりとした時間は決めていません。利用者様のペースや体調を考慮しながらお気持ちを尊重した対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時に髪をカーラーで巻いたり乳液など使用する方、朝からファンデーションを塗ったりする方がいらっしゃいます。着替え等出来る方は本人の意思で決めて着替えもされています。自己決定が難しい方には職員が見守り、介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を入荷した時は(ラッキョウ、つわ等)皮むきを手伝って頂いたり、行事で団子やまんじゅう作りを一緒に行います。利用者様の状態に合わせて刻み、普通食と提供の仕方も工夫されています。	専任者が中心に献立作成と、昼・夕食の調理を行い、嚥下力に応じた食形態や、アレルギーのある方には除去食を提供している。旬の食材を活かしながら、オリゴ糖の使用などこだわりを持って日々の料理が作られている。午前のおやつ時は麦茶を準備しているが、午後は昆布茶・ココア・アップルティー・キンカン湯、スポーツドリンクなど選択できるようにしている。感染症への対応から現在は、職員は見守りの後、時間をずらして同じものや持参した弁当などを食べている。食事の後に「ありがとな～美味しかった～！」と、笑顔で手を合わせる方もおられ、楽しい時間になっていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調と1日の摂取量は把握しており、食事量も個々に合わせて確認し、利用者様の好きな食べ物や食べやすいものを提供しています。また食物アレルギーの方に関しては原因となる食材を除いて提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは洗面所にて行い、自力で出来る方は見守りや声掛けを行い、出来ない方には一部介助にて対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、利用者様の状態に合わせ、パットも使用しています。自尊心に配慮した対応を心掛けています。	殆どの方が布パンツで過ごされており、尿取りを使用しながらリハビリパンツの方もおられる。夜間はポータブルトイレやオムツの使用、転倒が不安でパットを使用を希望される方、自身でパットの大きさを使い分けながら交換される方など、個々の機能を生かしながら支援している。排泄用品の使用については、家族へも説明と了承を得て行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の多い方には十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供しています。Dr指示にて下剤服用の利用者もおられますが、職員は出来るだけ自然排便を促す工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や体調を考慮しながらそれぞれに応じて入浴を行っています。希望に合わせた温度調節にも気を付けています。	時間の要望や入浴が好き等を把握し、職員はそれぞれに配慮した入浴の声掛けや誘導を行っている。「昔は毎日温泉に行ってた!」と、話しながら自身で体を洗われる方もおられるようである。入浴をあまり好まれない方には、カット支援後の誘導など工夫している。菖蒲や柚子の他、みかんの皮を入れた入浴など取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応していますが、なるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに綴り、職員が内容を把握出来るようにしています。利用者様に状態変化がみられた時にはかかりつけ医と連携をとり、状態に合わせた薬を処方してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな方には洗濯物畳み等を頼み、必ずお礼の言葉を伝えるようにしています。またスタッフ付き添いにて庭を散歩したり廊下を歩いたり、レクリエーションでは好みの歌を一緒に歌ったりしています。廊下の先に椅子を2脚設置して気分転換できる場を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には庭に出て外気浴やランチをしたり、季節に応じた外出の機会を設け、ドライブを楽しんで頂けるように努めています。	感染症や災害により、以前のような外出支援が困難な状況にある。しかし法人医院に避難中も、「外の空気を吸いに行こう!」と、散歩に出たり、体力、筋力低下予防にホール内でレクリエーションや体操に取り組んだことが広報誌で紹介されている。ホームでの生活が再開された後は、敷地内での散歩や外気浴、接触のないドライブを中心に支援している。以前は季節に応じたドライブ外出を楽しんでおり、感染症の状況を見ながら、出来得る支援に努めていきたいとしている。	帰宅願望のある方もおられるが、受け入れる家族も被災され、難しい状況のようである。車中からのふるさと訪問などについても、検討したいとしており、実現に期待したい。また、入居者は苗を見られただけで何の野菜かわかられるようであり、今後も野菜作りが戸外に出る機会と食への関わりの一つとして大いに期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持っておられる方もいらっしゃいます。利用者様より預かっているお金や、ご家族から預かったお金は事務所で管理しています。現在、生活保護の支給を受けていらっしゃる方は1名です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話は自由にかけていただいています。ご家族からの取り次ぎも出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の復旧後間もないため十分ではありませんが、少しずつ季節毎の花や装飾品を飾ったり、利用者様が作られた作品を飾ったりしています。居室の入り口には暖簾を下げ、プライバシーに配慮しています。	災害により飾り物なども使用不可や流出し殺風景な状況になったが、職員が観葉植物(コケ玉など)を持ち込んだり、掲示物を一工夫しながら環境整備に取り組んでいる。玄関には入居者の笑顔の写真が掲示され、一からのスタートを感じる事が出来る。感染症への対応からホーム内は、掃除や換気、消毒などこれまで以上に努めている。	職員が協力しながら新たな環境整備への取組が窺われ、更に、倉庫などが配置された際は、玄関先の掃除用品などの収納が出来ると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に置いてあるソファは利用者様が落ち着いてくつろげるような配置を職員が常に考えて取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族より思い出の品や本人が希望される品を持ち込んで頂き、居心地の良い空間にしている。居室でゆっくりテレビを観て過ごされる方もいらっしゃいます。	居室内明るくリフレッシュされ、災害前同様、職員の特技を活かした似顔絵の掲示は表札や目印にもなっている。新たにベッドやタンスが備えられ、立ち上がり不安定な方には、手すりを設置するなど身体状況に応じ安全な環境が作られている。また、寝ながら照明が消せるよう、本人と一緒に紐を編んでおり、使い勝手の良いものになっている。入居時に慣れ親しんだ物の持ち込みを依頼しており、季節の変わり目には早めに家族が準備されている。職員も不足の品や転倒防止のための靴下(滑り止め付き)など、要望などもわかりやすく伝えている。	食後は足を延ばし居室でやすむ時間(1~2時間ほど)を設けており、寝具の整頓も自らされる方や必要に応じて職員のサポートが行われている。今後も家族の協力を得ながら、コロナ禍にあっても居室での時間が居心地世の良いものとなる支援を継続していきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた支援を行っています。床には滑り止めマットを使用し、居室内の家具や柱の角などはクッション材でガードしたり手の届く所に使用される物を置いたり、安全に「出来る事」をして頂けるよう工夫しています。		